

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2018 年 4-6 月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲13 となり、足踏み状態となっている。経営上の問題点を見ると、4 期連続で「従業員の不足」が 1 位となり、深刻な人手不足が続いている。

2018 年 4-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 20%で前回調査（2018 年 1-3 月期 18%）より 2 ポイント悪化、「好転」とした企業は 7%で前回調査（6%）より 1 ポイント改善した。景況判断 DI は▲13 となり、前回調査（▲12）より 1 ポイント悪化した。

以下、その他業況感 DI の内訳

2018 年 1-3 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲6 で、7 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲7 で、4 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は 5 で、6 ポイント改善
 - ・営業利益 DI は▲13 で、4 ポイント悪化
 - ・資金繰り DI は▲3 で、4 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 7 で、1 ポイント悪化
 - ・設備投資 DI は▲1 で、1 ポイント悪化
 - ・従業員数 DI は 4 で、7 ポイント改善
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲14 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 7%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 4%増となった。
- 経常利益率については、平均値が 5.55%で前回調査（5.32%）より改善した。
- 経営上の問題点としては、「従業員の不足」22.5%（前回 22.2%）が 4 期連続で 1 位となった。「人件費以外の費用増加」が前回の 4 位から 3 位に上昇した。

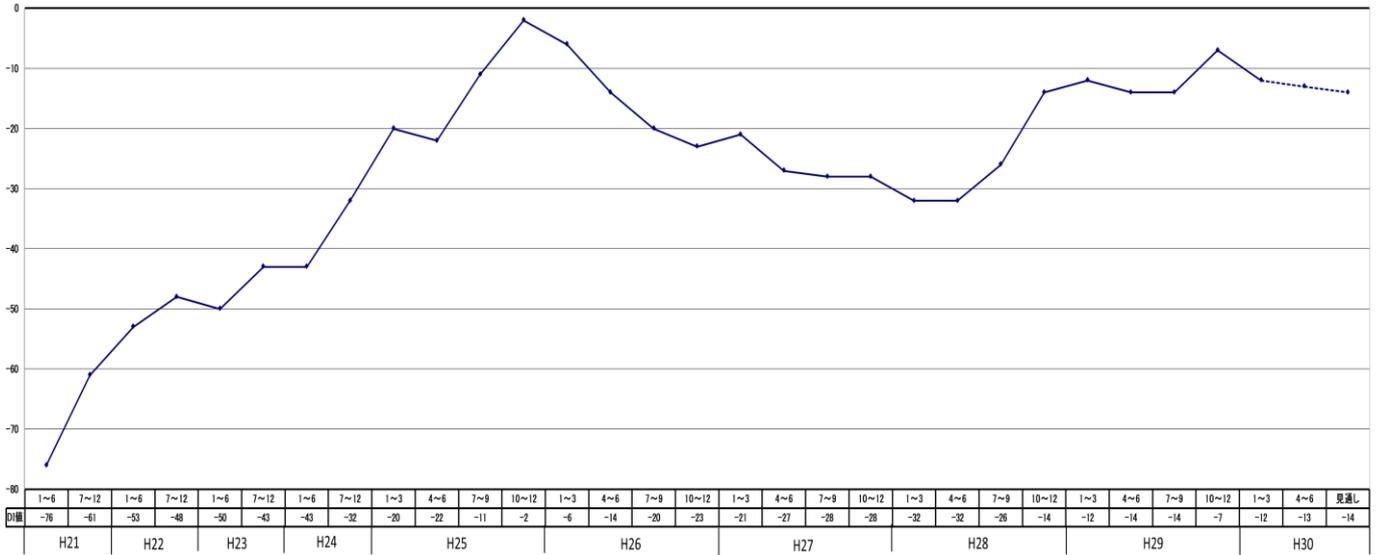
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

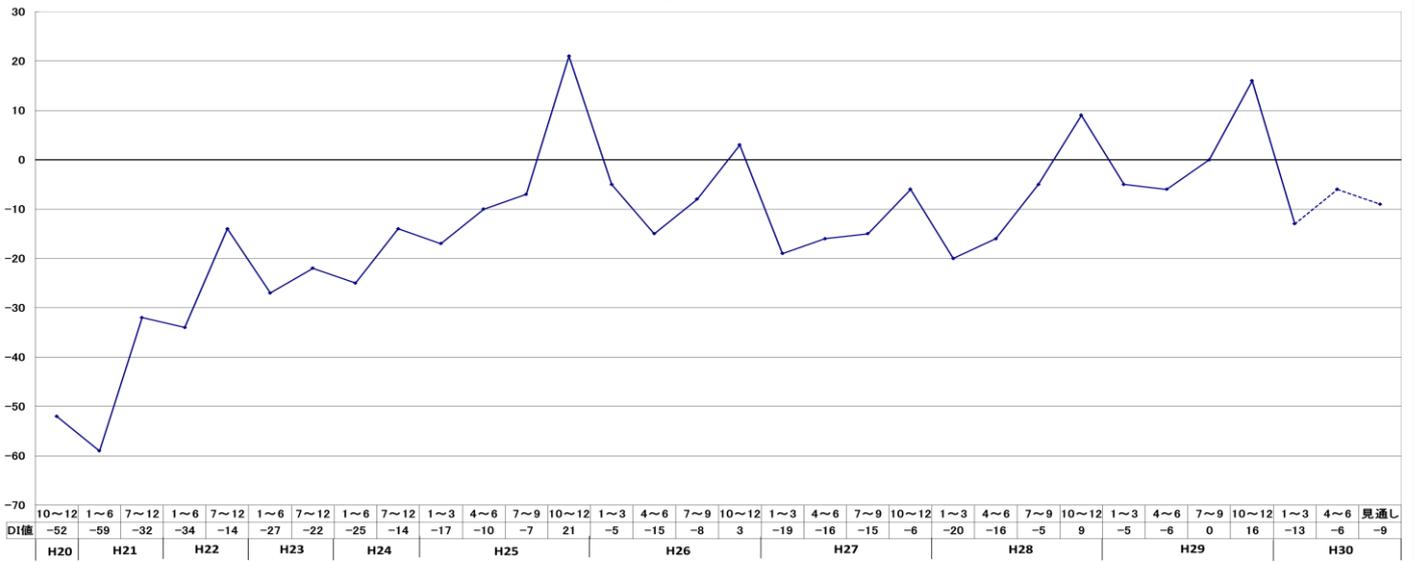
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 30 年 7 月 12 日～9 月 7 日
- 回答企業数：379 社

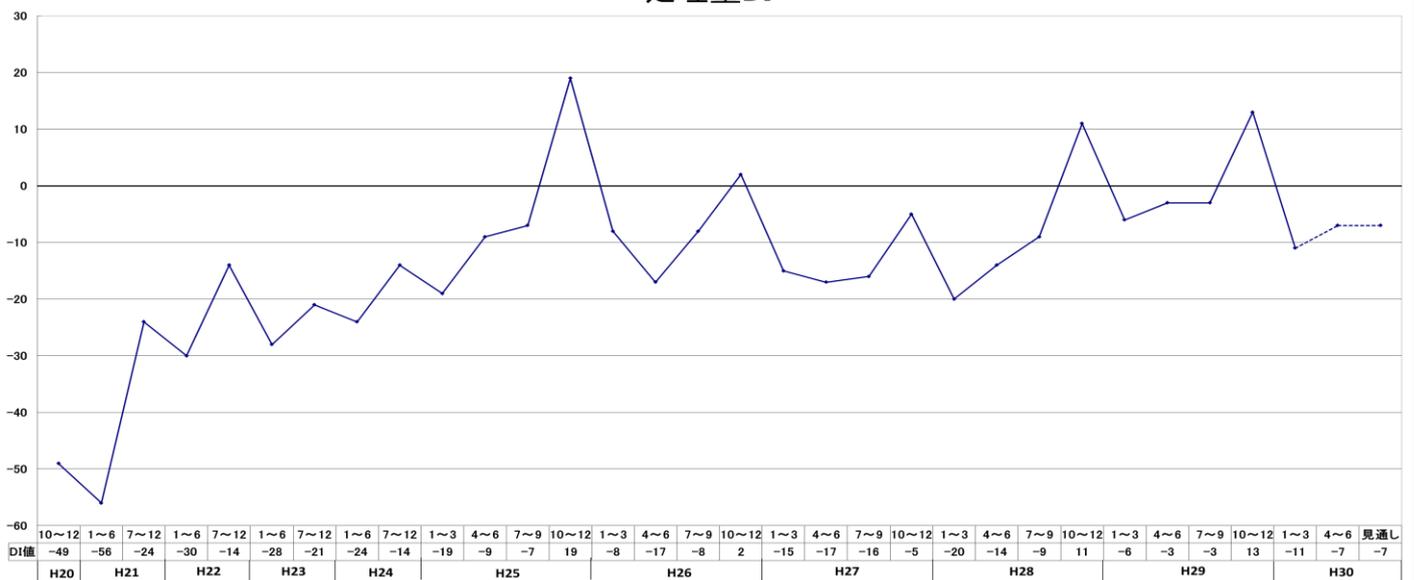
景況判断DI



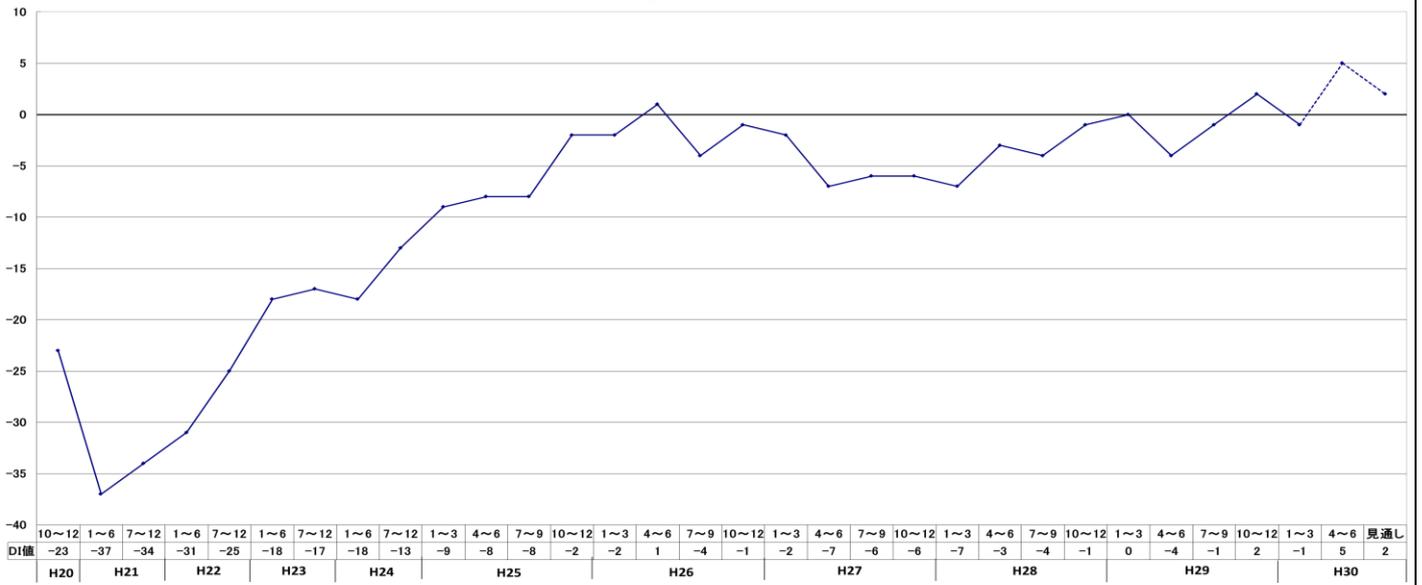
売上高DI



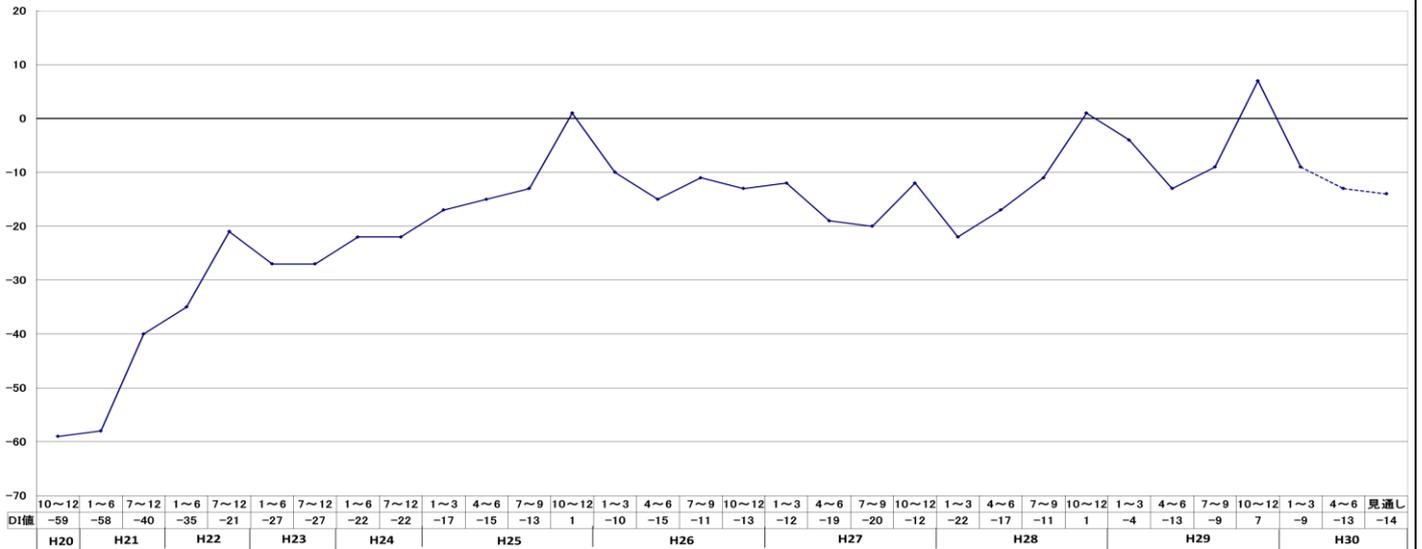
処理量DI



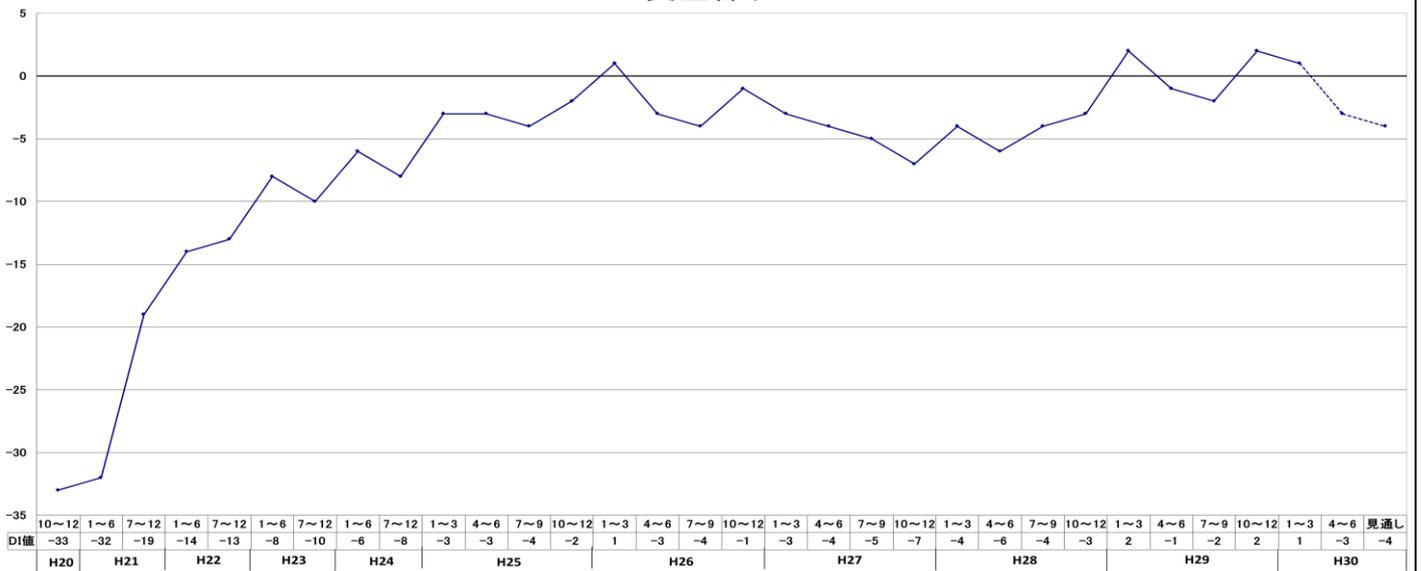
契約単価DI



営業利益DI



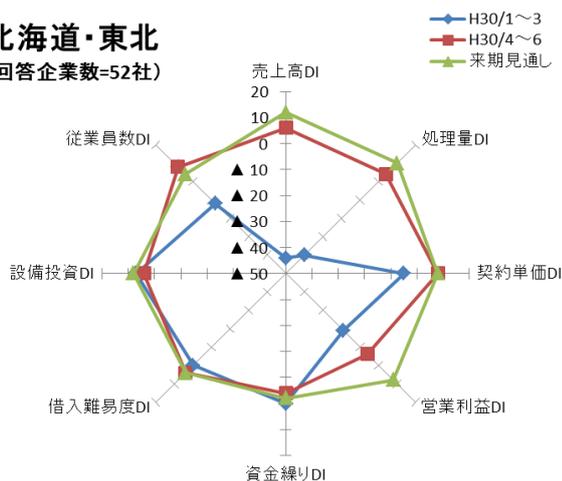
資金繰りDI



【地域別レーダーチャート】

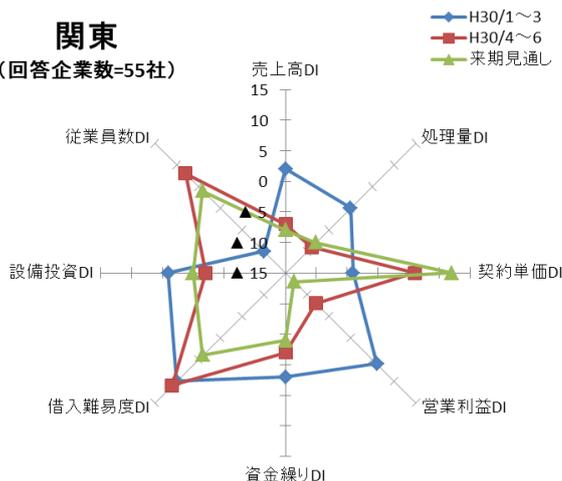
北海道・東北

(回答企業数=52社)



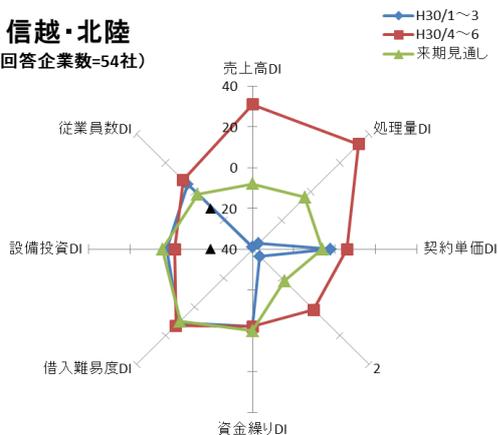
関東

(回答企業数=55社)



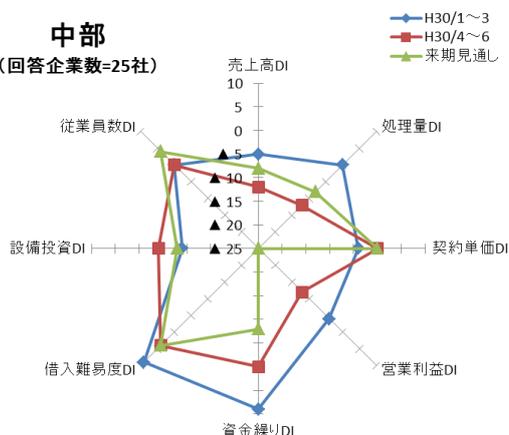
信越・北陸

(回答企業数=54社)



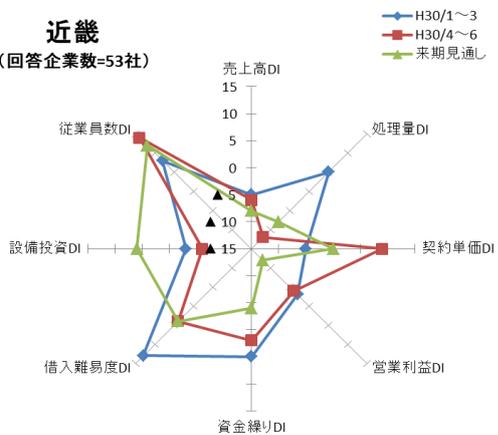
中部

(回答企業数=25社)



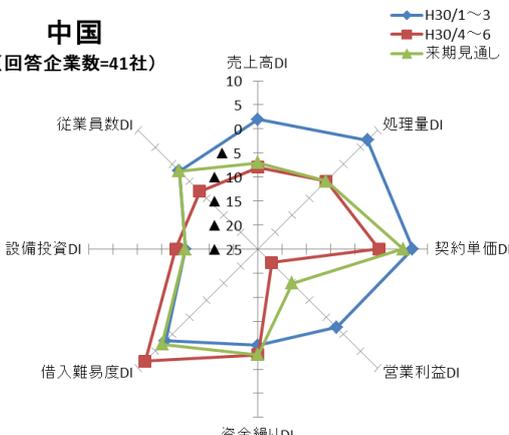
近畿

(回答企業数=53社)



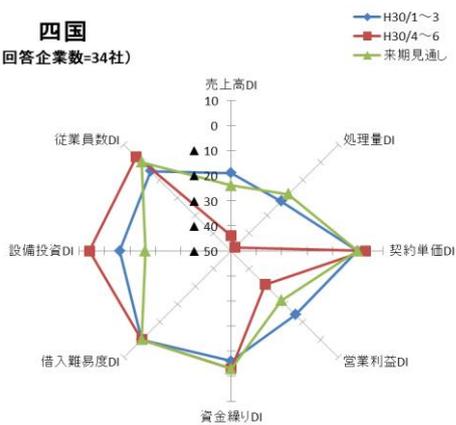
中国

(回答企業数=41社)



四国

(回答企業数=34社)



九州・沖縄

(回答企業数=65社)

